# ３Ｒ瓦版（４月号） 2020 年

© 2020 フジコ イトウ All Rights Reserved.

RepairFactory ㈲本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地

tel：0774-66-6254

## はじめよう、服育！

みなさんは服を買う時に、どんなことを考えて購入しますか？

「デザイン」「価格」については、おそらくほとんどの方が考えるポイントでしょう。この他に、洗濯のしやすさなどの「機能性」を上げる方もおられるかもしれません。

これらは食べ物を買う時も同じで、食に置き換えれば「見た目」「価格」そして「調理のしやすさ」といったところでしょうか。

食の場合はその他にも「産地はどこであるか」「安全であるか」、そして「環境によいか（オーガニック等）」といった点についても考えるという方はたくさんいらっしゃると思います。

しかし、服はどうでしょう？服を購入する時に、「どこで作っているか」「安全であるか」「環境によいか」など考える方はかなり少数であると思われます。

スーパーに行けば、お肉も野菜も「〇〇産」と分かりやすく産地を表記して売られていますし、食料自給率（生産額ベース 66％、カロリーベース 37％、平成 30 年度）や食品ロスについても耳にしたことある方は多いと思います。

それに比べて服はどうでしょう。97.7％（2018 年）にものぼる輸入浸透率や、約２割という低い 3R 率、さらには年間に供給される量の半分近くが販売されることもなく処分されているという現実について、関心を持っている方はまだまだ少ないのが現状です。

服はもちろん私たちをきれいにかっこよく見せるファッションアイテムです。しかしそれと同時に、あなたの人となりを何も言わなくても相手に伝えるノンバーバルコミュニケーションのツールであり、地球上の天然・化学様々な素材を使い、世界のどこかで一枚一枚誰かがミシンで縫ってつくりだされている、環境や労働問題とも密接につながっているものなのです。

私たちはユニフォームを中心に繊維製品を扱っており、よりよいデザイン、そして環境に配慮したユニフォームをお届けできるよう様々な取り組みを進めています。

その一環として取り組むのが「服育」です。
「服なんて何でもいい」と関心なく過ごしても、大きく困ることはないかもしれません。

しかし、自分の着る服が、コミュニケーションや環境問題等に深く関わっていることを知り、考えて選び・着ることができれば、何かが少しずつ変わっていくかもしれません。

誰にとっても身近な服だからこそ、大人はもちろん子どもたちにとっても、自分や世界のいろんなことを考えるきっかけになるでしょう。何よりも服について考えることは楽しいのです！

ぜひ、皆様の会社で、ご家庭ではじめてください、「服育」！

株式会社チクマ 服育 net 研究所 有吉 直美